

**NPO法人 口から食べる幸せを守る会**

**第4回実技セミナー(アドバンスコース)**

経口摂取実現のための  
ベッドサイドスクリーニング評価と食事介助

**実技セミナー概要報告**



**会期:平成 26 年 3 月 15 日(土)**

**会場:神奈川県立保健福祉大学**

**主催:NPO 法人 口から食べる幸せを守る会  
理事長 小山珠美**

**企画者:水戸優子、大石朋子、竹市美加**

**共催:大塚製薬工場**

口から食べる幸せを守る会 第4回実践セミナー(アドバンスコース)を神奈川県立保健福祉大学にて開催いたしました。この実践セミナーは、臨床場面での困難症例におけるベッドサイドスクリーニング評価から、より安全で効率的な経口摂取の開始や食事援助が図れるスキルアップを目的に企画いたしました。参加者は、これまでも摂食・嚥下リハビリテーションに従事していて、よりスキルを磨きたいという医療従事者を対象におこなっております。

以下に、第4回実技セミナー概要を報告いたします。

会期:平成26年3月15日(土)

会場:神奈川県立保健福祉大学 看護実習室A、看護演習室

参加者:30名

(職種別内訳:医師3名、歯科医師5名、看護師11名、言語聴覚士1名、管理栄養士5名、歯科衛生士5名)

(都道府県別内訳:神奈川県10名、東京都5名、兵庫県3名、山梨県3名、広島県3名、沖縄県1名、京都府2名、群馬県2名、埼玉県1名、茨城県1名福岡県1名)

アドバイザー:9名

〈敬称略〉

小山珠美	東名厚木病院	看護師
大石朋子	神奈川県立保健福祉大学	看護師
竹市美加	JA 広島総合病院	看護師
一瀬浩隆	東名厚木病院	歯科医師
甲斐明美	東名厚木病院	看護師
川端直子	広島市総合リハビリテーションセンターリハビリテーション病院	看護師
近藤奈美	みなと医療生活協同組合協立総合病院	看護師
金志純	(前)日本赤十字広島看護大学	看護師
谷恭子	谷歯科医院	歯科衛生士

オブザーバー:1名 水戸優子(神奈川県立保健福祉大学教授)

会場スタッフ:6名 上田由希、成田麻美、金子晴香、高橋祐貴、後藤真由美、佐々木祐里絵(神奈川県立保健福祉大学卒業生)

後援メーカー: 株式会社オーラルケア(吸引付きみにくるリーナブラシ提供)

ラックヘルスケア株式会社(カッティングテーブル説明、クッション類提供)

日清オイリオグループ株式会社(トロミ調整食品提供)

株式会社大塚製薬工場(嚥下補助ゼリー提供)

株式会社渡辺商事(嚥下食品、おかゆ提供)

クリニコ(栄養補助ゼリー提供)

## 《スケジュール》

時間	項目
9:10～9:30	受付
9:30～9:45	オリエンテーション
9:45～9:55	商品紹介(ラックヘルスケア)
10:00～10:30	全体講義(小山)
10:30～10:45	演習準備
10:45～11:00	実技演習1 (口腔ケア・基礎訓練:1名のみ実施)
11:00～12:20	実技演習2 (ベッドサイドスクリーニング評価:全員)
12:20～13:10	昼休憩
13:10～13:40	指定事例についての講義(小山)
13:40～14:00	指定事例の食事介助全体デモンストレーション(小山)
14:00～14:10	演習準備
14:10～15:10	指定事例について実技演習3 (ベッドサイドスクリーニング評価:2～3名、ベッドもしくは車椅子での食事介助:全員)
15:20～15:30	休憩
15:30～16:10	まとめ・質疑応答
16:10～16:30	終了・更衣・解散

## セミナー風景①

小山講師による講義風景



皆さん真剣です！



実技演習風景①



実技演習風景②



参加者が持ち寄った事例を共有



## セミナー風景②

### 実技演習の全体風景



### 車椅子で手添えでの捕食介助



全員で頑張るその  
ピース♪



第4回実技セミナー参加者・関係者の皆さまへ  
参加者の皆さまお疲れ様でした。  
アドバイザーの皆さまご協力いただきありがとうございました。

## 《第4回 KTSM 実技セミナー(横須賀) アドバイザーとして参加して》

### 水戸優子(神奈川県立保健福祉大学基礎看護学教授)

昨年開催した第1回実技セミナーについて2回目の神奈川開催でした。参加者の方々の意気込みは、前回に続くものがあり、全国各地からはるばる参加していただきました。参加者の皆様の「口から食べる幸せを守りたい」という思いを支えるべく、実技セミナーの会場準備・運営、必要物品の準備、時間管理を行わせていただきました。参加者の方々およびアドバイザーの実技の様子を一日、後方からみせていただきましたが、とても熱心でかつ楽しそうに取り組んでいらっしゃいました。そして、みなさんの帰る姿には、満足した様子とこれから引き続き頑張ろうという思いが感じられました。

これからも実技セミナーの企画・運営に携わっていきたいと思います。どうぞ皆様も実技セミナーリピーターになってくださいね。ありがとうございました。そして大変ご苦労様でした。

### 大石朋子(神奈川県立保健福祉大学基礎看護学)

実技セミナーのアドバイザーとして参加するのは、3回目となります。日頃は、大学で授業や演習を行っているため、臨床的な感覚を取り戻して実技セミナーの演習が行えるかと自問自答しながら毎回とても緊張して参加しています。実技セミナーを無事に終了するまで緊張の日々を過ごしますが、実技セミナーが終了した後の充実感はとてもあり、自分自身にも学びがあると同時に、食べることを支援する技術や姿勢について反省するよい機会となっています。

口から食べることを支える技術は奥深く、習熟するにはまだまだ遠い道のりですが、スキルアップしていけるように努力を重ねていこうと思います。また、「口から食べる幸せを守る」ために受講して下さった皆様とともに今後も活動をしていけることを楽しみにしております。

最後に、実技セミナーを無事に開催できましたのは、サンプル等を提供して下さった企業の皆様、そして、準備・片づけを手伝って下さった皆様のお陰だと思っています。本当にありがとうございました。

### 竹市美加(JA 広島総合病院)

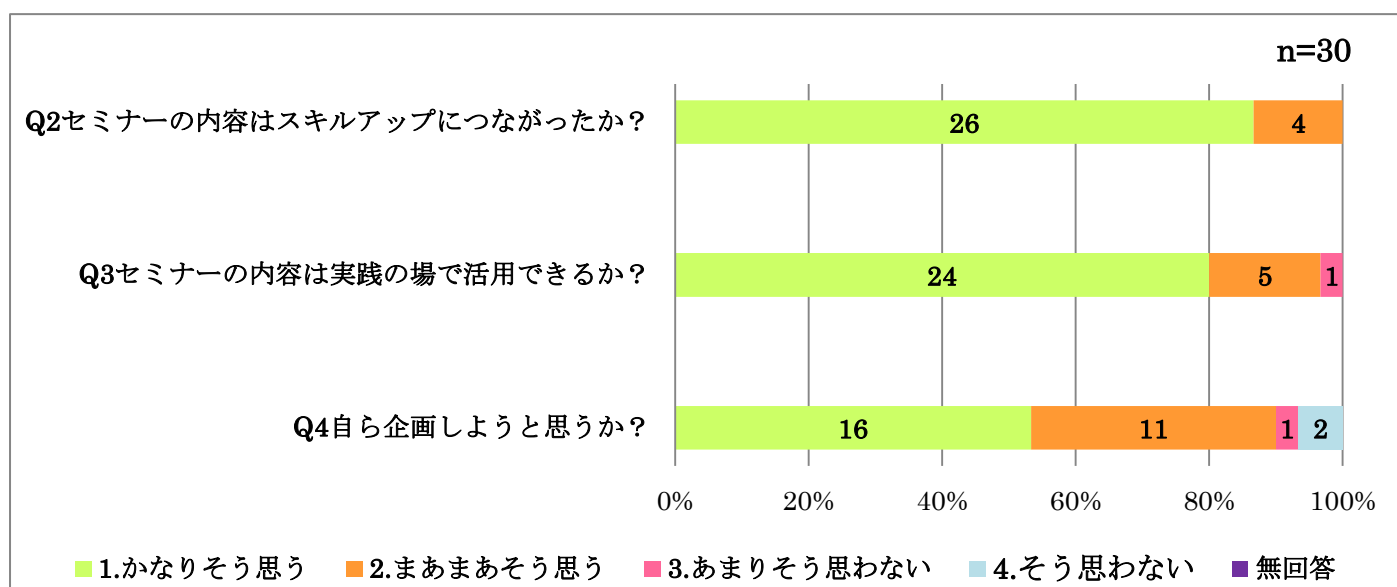
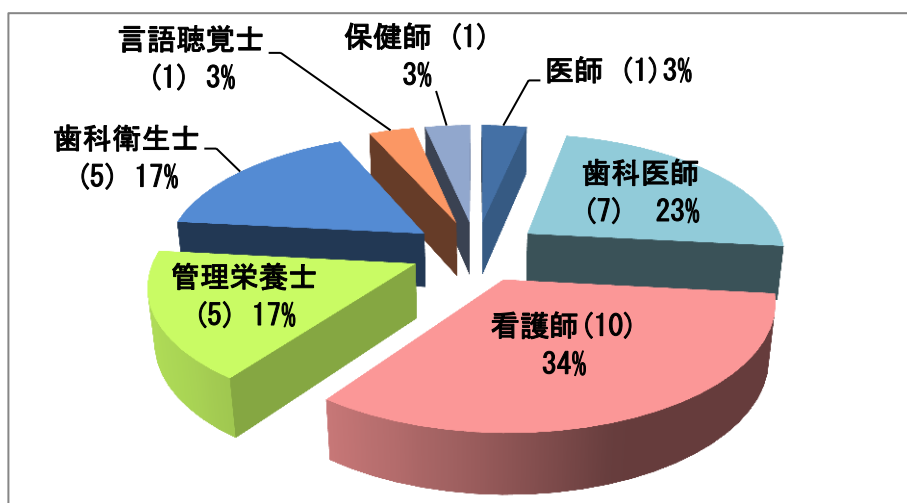
来年度の診療報酬改定では、胃瘻造設に対する検査や胃瘻閉鎖に対する報酬加算などの改定が行われます。このように、社会が「口から食べる」ことを重要視し、支援するようになってきました。ではどうすれば「口から食べる」を支えることができるのでしょうか？小山先生が講義の中で、「口から食べる」を支えるためには「心技体」が必要とお話をされていました。私は看護を実践する中、これに知を加え「心技体知」が必要と実感しています。しかし、社会全体が「口から食べる」ことに熱い思いを持ち、書籍なども多数出版され知識を得る機会もありますが、技術を学ぶ機会がほとんどありません。このKTSM実技セミナーでは、「技」を学んでいただけるように企画しています。熱い思いを持った方が実技セミナーに参加し、技術を学び活用していただけることで、多くの方の「口から食べる」に繋がると思います。

実技セミナーにも、まだまだ修正点・課題があります。参加者して下さった方がより満足していただけるようなセミナーを、今後開催できるように自らの知識・技術の向上を目指し、今回参加して下さった「仲間」と一緒に頑張っていきたいと思います。

今回参加して下さった皆様、アドバイザー、関係者の皆様、ボランティアの皆様、そしてこのような機会を作ってくれた小山先生に感謝いたします。

# 参加者によるアンケート結果報告

参加者(30名)内訳



## <Q2 スキルアップについての感想>

- ・「もし私だったら…」と患者さん役を演じる事で少し実体験できました。
- ・今まで見たこともない手技にただただ関心するばかりです。これからもスキルアップのために学び続けたいと思います。特にスクリーニングは勉強になりました。本当にびっくりしました。
- ・介助方法だけでなく自分が介助される側になり、今まで気付かなかったことがたくさんあり、とても勉強になりました。
- ・2個持ちカップ、咽頭残留+呼吸の協調のため、本人の疲労防止のため役に立ちました。
- ・点と面、空間、視野に入れるものなど患者の五感に配慮しつつ行う事のヒントを多く頂けました。
- ・環境を整える事、患者さんの食べる意識を見て、どこをどのように介助するのか。スプーンの持ち方、食べ物の見せ方、細かい配慮をすることがとても大切だという事が理解できました。
- ・今まで本で読んだこと、聞いたことで得る知識が多かったけれど、今回実践からの技術と実技を通じて学ぶ事が出来ました。

### <Q3 今後の実践に関する感想>

- ・病棟で他のスタッフへ伝達するとき。事例の一つ一つの患者さんへ何が強みかアセスメントするとき。
  - ・在宅訪問栄養指導で活用したいと思います。また、こういう手技があるということを一人数でも多くの人に知ってもらいたいです。
  - ・スクリーニングをする際、食事介助をする際、今日教えて頂いたテクニックを使いたいと思います。
  - ・日常当たり前に行っている事(食事介助など)のベースアップをまずはやりたいと思いました。
  - ・在宅の訪問で担当者のお休みの時、サポートで食事介助に入ることであるので、その際に出来る事を取りいれていきたい。
  - ・施設で胃瘻だけど、ゼリーとかゼリーとか摂食したい人がいるのでためしてみたい
  - ・今後、脳神経内科病棟へ移動する予定であるため、患者様の状況に合わせた援助を少しでも行えたらと思います。
  - ・今までうまくいかなかったことを変えられる具体策を見つけられたらと思う。Or 口唇閉鎖時のアシスト嚥下が起こらない方へのスプーンの使用法
- ①クラッシュゼリーにすることの意味を考える実験の研修②左手の食事介助③口から食べる事の大切さについては地域包括から依頼された研修でご家族に研修したいと思います。

### <Q4 今後のセミナーで取り上げて欲しい内容>

- ・基礎的な事例も加味した実践(現場での)を研修していただきたい。
- ・嚥下能力と食形態の決定
- ・パーキンソン症候群の方の嚥下障害
- ・気管切開の離脱
- ・認知症の方の口から食べるセミナーをお願いしたいです。食事介助中の緊急事態対策をお願い致します。

参加者の皆さま、ご意見ご感想ありがとうございました。